

笑ってごらん

第 532 号 H. 27. 11. 17 発行

～今日のことば～

恩は石に刻み、恨みは水に流せ。

◇◆14日(土)の全体朝礼。国民文化祭について触れ、関連して鹿児島県の『郷中教育』のことを話した。『負けるな 嘘をつくな 弱い者をいじめるな』という代表的な教えがある。辛いことがあっても自分を信じてやり抜くこと、人として誠実さが何より大切であること、立場の弱い人を攻撃するような卑屈な考えや行動をとらないこと。加えて、これも鹿児島に古くから伝わる言葉『泣こかい 飛ばかい 泣こよっかひっ飛ばべ』も紹介。「夢に届くまで頑張れるだろうか、でも、迷って泣くぐらいなら、思い切ってやってみよう！」という意味である。誰しも未経験の目標に向かっての挑戦は、先が見えないために不安感に包まれてしまうものである。それは当たり前のこと。だからこそ、思い悩み考えるのではなく、自分を信じて行動に移すことが重要になる。◇◆全体朝礼終了後、吹上高等学校創立90周年記念式典に出席した。車を駐め、受付に行くと、女子生徒がズラッと並んでいた。所属と名前を告げると、資料を手渡され、「控室までご案内します！」と案内役の生徒が誘導してくれた。案内役の生徒に従い、長い廊下を進んで行く途中、別の来賓の案内を終えて受付に戻る生徒4名とすれ違った。皆、一旦立ち止まり、ニコッと微笑み、「こんにちは」と丁寧な挨拶をしてくれた。自分の挨拶が恥ずかしくなるくらい素敵な挨拶であった。◆体育館へ案内され、式典が始まった。校長先生・実行委員長・来賓とご挨拶が進んでいく中、印象的だったことがある。話者が登壇したら全員起立。話者の合図で着席。そして、ご挨拶終盤、日付を述べるタイミングで再度起立、話者の降壇で着席。これらの一連の動作が自然に行われていたこと、加えて、式典最中に無駄話をしたりする生徒がいなかったこと。とても清々しく思った。本校においては当たり前のように動いていることも、来賓としての立場で見ると、やはり嬉しいもの。他校の様子を通じ、改めて本校の取り組みの良さを実感した。

～．

感謝道

◇◆13日の地元紙朝刊に、10月31日に行われた「加世田女子高等学校商業科7回生還暦同窓会」の『還暦記念授業』の様子が記事として掲載された。恩師2名による楽しそうな授業の様子が写真に映し出されていたが、これにはもちろん舞台裏がある。

実は、この日を迎えるまで、新聞記者からは「参加者全員から取材許可と新聞掲載許可を取って欲しい。また、責任者を明確に」と、かなりハードルの高い要求があった。記者曰く、「単に個人情報保護というレベルではなく、同窓会においては参加者それぞれの様々な思惑が絡み合う状況があり、かつて取材に伺った際、『誰が新聞記者なんか呼んだんだ！帰れ！』と凄い剣幕で怒られ、場の空気が凍り付いた苦い経験がある」とのこと。そこで、緊急に代表の方へ連絡し、その旨を伝え、参加する方々の内諾を取ってもらった。ただ、完全には連絡がつかなかったので、「あとは当日に承諾をとりましょう。その上で判断しましょう」という段取りになっていた。代表の方も、私も、記者も、内心ドキドキながら、取材についてお話すると、「あら、じゃあ、こっちにみんな詰めて！ほら、ちゃんと寄らないと写らないわよ！」……ドヤドヤドヤ……、皆さん机を持って積極的に窓際へ移動する状況。気を揉んでいたのが馬鹿らしくなった。『あの～、ということは、皆さん写真に写ってもよろしいと、新聞に載ってもよろしいと受け止めていいでしょうか？』、「あら、皆いいわよね？後ろの席の人はかぶらないように間から顔をだしてね！」。……新聞に掲載された写真はそれなりだったが、実際は参加者全員が教室の左半分に固まっていたのである。傍から見ていた者としては異様であり、ユニークな光景だった。しかしながら、誰一人クレームを言われるでもなく、ニコニコと喜んでくださっていたので、準備した私達もとても嬉しい気持ちに包まれた。代表の方からも御礼のお手紙や電話をいただき、「新聞には思ったより大きく掲載してもらった」と感激されていた。